

富山県内の中小企業動向調査

# ファーストTrend

2024年1月号

## CONTENTS

1. 中小企業動向調査 [2023年10～12月実績/2024年1～3月見込/4～6月予測]
2. 富山県内の中小企業の人材確保について

## 中小企業動向調査（2023年12月末日基準）

この調査は、富山県内企業330社からのアンケート結果をまとめたものです。

企業の調査資料として、2023年10月～12月の実績、2024年1月～3月の見込、2024年4月～6月の先行き見通しを集約した概要です。なお、季節調整は行っていません。

回答企業数（調査企業数）
330（646）
うち、製造業62社、非製造業268社

調査時期：2024年1月

方法：インターネットによる当行取引先へのアンケート実施

このたびの令和6年能登半島地震の影響により被害を受けられた皆さまに心よりお見舞い申し上げます。本アンケート結果につきましては、年初に発生いたしました地震の影響が反映されたものになっております。

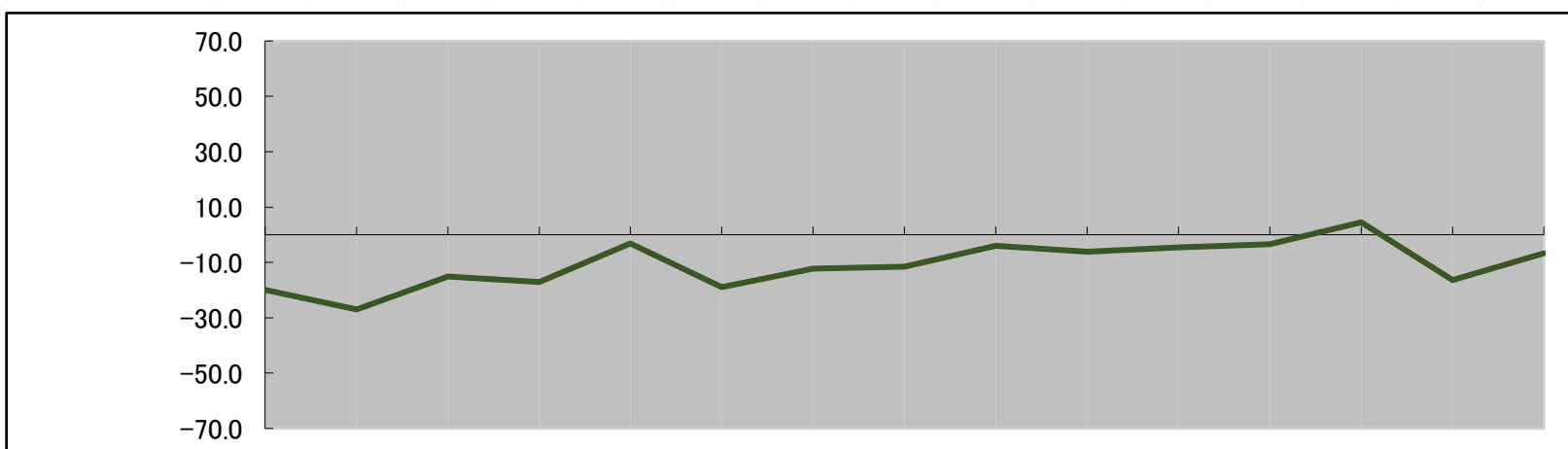
日本銀行富山事務所が2024年2月に公表した「富山県金融経済クォーター2024年冬」によると、「富山県の景気は緩やかに回復していたものの、能登半島地震の影響により、生産や個人消費を中心に現時点で強い下押しの動きがみられる。最終需要をみると、個人消費は、小売や観光関連において地震による下押しがみられるほか、乗用車販売における供給制約の影響から、減少しているとみられる。住宅投資は、減少している。設備投資は、地震による案件先送り等に伴う下振れ懸念はあるものの、基調として増加している。～（抜粋）当地製造業の生産は、地震による生産設備等への影響が広範に及んでおり、現時点では減少しているとみられる。業種別にみると、電気機械は、低水準で横ばい圏内の動きとなっている。医薬品を中心とする化学は、減少しているとみられる。金属製品は、減少している。汎用・生産用・業務用機械は弱含んでいる」とあります。今後も能登半島地震の影響を注視する必要があります。

### I. 企業業況

（小数点第2位を四捨五入）

企業業況の推移……（全産業）

		（％）														見込	予測
		2020				2021				2022				2023			
種別	期別	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	
	良	い	16.8	14.1	17.3	15.4	22.0	17.4	17.2	16.3	22.6	20.7	20.5	20.4	24.2	12.1	12.7
普	通	46.4	44.8	50.4	52.1	52.8	46.2	53.5	55.8	50.9	52.4	54.3	55.7	56.1	59.4	67.9	
悪	い	36.8	41.1	32.4	32.5	25.2	36.4	29.4	27.9	26.5	26.9	25.1	23.9	19.7	28.5	19.4	
D	I	-20.0	-27.0	-15.1	-17.1	-3.2	-19.0	-12.2	-11.6	-4.0	-6.2	-4.6	-3.5	4.5	-16.4	-6.7	



富山県内の中小企業の業況を全産業で見ると、業況判断指数D.I.「良い-悪い」は、プラス4.5となり、前回より8.0ポイント改善しました。先行きについては、2024年1月～3月は悪化傾向となっておりますが、2024年4月～6月は再び改善傾向となる予想です。従前からの課題である、中国景気下振れリスクや個人消費の天井感の懸念や令和6年能登半島地震の影響が反映された結果となりました。

## I. 企業業況（続き）

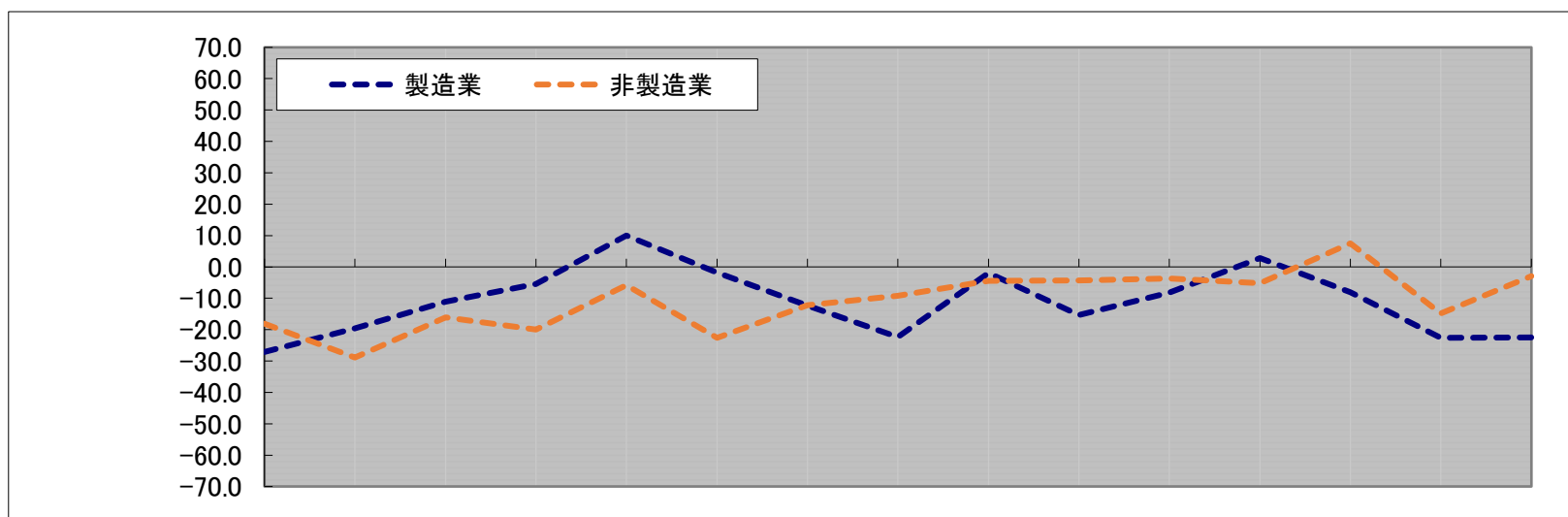
企業業況の推移……（うち製造業のみ）

（小数点第2位を四捨五入）

		（%）												見込	予測				
		2020				2021				2022				2023				2024	
		10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月			
良	い	20.3	17.6	20.4	23.6	36.7	30.9	24.6	15.5	26.4	25.0	21.9	30.6	25.8	11.3	8.1			
普	通	32.2	45.1	48.1	47.3	36.7	36.4	38.6	46.6	45.3	34.6	47.9	41.7	40.3	54.8	61.3			
悪	い	47.5	37.3	31.5	29.1	26.7	32.7	36.8	37.9	28.3	40.4	30.1	27.8	33.9	33.9	30.6			
D .	I .	-27.1	-19.6	-11.1	-5.5	10.0	-1.8	-12.3	-22.4	-1.9	-15.4	-8.2	2.8	-8.1	-22.6	-22.5			

企業業況の推移……（うち非製造業のみ）

		（%）												見込	予測				
		2020				2021				2022				2023				2024	
		10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月			
良	い	15.8	13.2	16.5	13.3	19.2	14.6	15.7	16.5	21.8	19.8	20.2	17.7	23.9	12.3	13.8			
普	通	50.2	44.7	50.9	53.3	55.9	48.3	56.4	57.9	52.0	56.0	55.9	59.4	59.7	60.4	69.4			
悪	い	33.9	42.1	32.6	33.3	24.9	37.2	27.9	25.7	26.2	24.1	23.9	22.9	16.4	27.2	16.8			
D .	I .	-18.1	-28.9	-16.1	-20.0	-5.8	-22.6	-12.2	-9.2	-4.4	-4.3	-3.7	-5.2	7.5	-14.9	-3.0			



製造業と非製造業に分けて見ると、製造業の業況判断指数D.I.は、マイナス8.1となり、前回より10.9ポイントの大幅な悪化となりました。非製造業ではプラス7.5となり、前回より12.7ポイント改善しました。製造業では2024年1月以降も悪化予想となっており業況D.I.は引き続きマイナスとなる予想です。非製造業も2024年1月～3月は悪化予想となっています。2024年4月～6月は改善予想となっています。

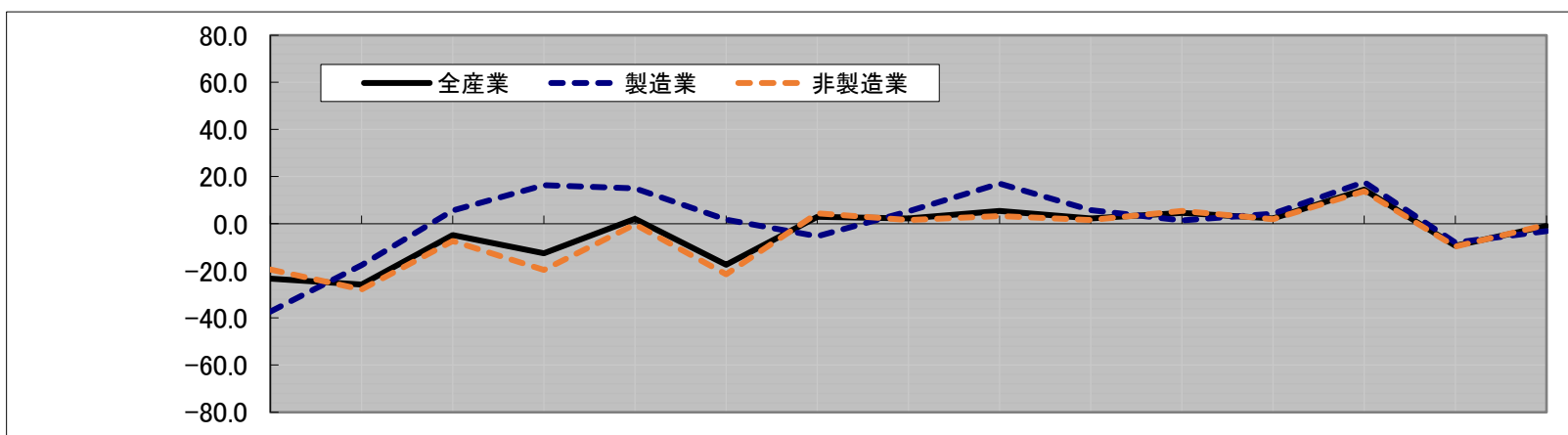
## II. 売上高状況

(小数点第2位を四捨五入)

	2020														見込		予測			
	2020					2021					2022				2023				2024	
	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	見込	予測			
増加	20.0	17.7	24.6	20.0	28.4	16.8	27.6	25.7	27.7	26.5	27.6	27.1	31.5	16.4	17.6					
横ばい	36.8	38.7	46.0	47.5	45.3	49.1	47.7	50.8	50.0	49.2	49.5	48.1	51.5	57.9	63.9					
減少	43.2	43.5	29.4	32.5	26.3	34.2	24.7	23.5	22.3	24.3	23.0	24.8	17.0	25.8	18.5					
D . I .	-23.2	-25.8	-4.8	-12.5	2.1	-17.4	2.9	2.2	5.5	2.3	4.6	2.3	14.5	-9.4	-0.9					

	2020														見込		予測			
	2020					2021					2022				2023				2024	
	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	見込	予測			
増加	15.3	23.5	29.6	30.9	40.0	27.3	24.6	32.8	37.7	34.6	28.8	33.3	40.3	22.6	22.6					
横ばい	32.2	35.3	46.3	54.5	35.0	47.3	45.6	39.7	41.5	36.5	43.8	37.5	37.1	46.8	51.6					
減少	52.5	41.2	24.1	14.5	25.0	25.5	29.8	27.6	20.8	28.8	27.4	29.2	22.6	30.6	25.8					
D . I .	-37.3	-17.6	5.6	16.4	15.0	1.8	-5.3	5.2	17.0	5.8	1.4	4.2	17.7	-8.0	-3.2					

	2020														見込		予測			
	2020					2021					2022				2023				2024	
	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	見込	予測			
増加	21.3	16.2	23.4	17.3	26.2	14.6	28.2	24.1	25.8	24.9	27.3	25.5	29.5	14.9	16.4					
横ばい	38.0	39.6	45.9	45.8	47.3	49.4	48.1	53.3	51.6	51.8	50.8	50.9	54.9	60.4	66.8					
減少	40.7	44.2	30.7	36.9	26.5	36.0	23.7	22.6	22.5	23.3	21.9	23.6	15.7	24.6	16.8					
D . I .	-19.5	-27.9	-7.3	-19.6	-0.3	-21.5	4.5	1.5	3.3	1.6	5.4	1.9	13.8	-9.7	-0.4					



売上高D.I.は全産業ではプラス14.5となり、前回より12.2ポイント改善しました。2024年1月~3月の売上高D.I.はマイナス圏内に降下予想となっています。2024年4月~6月は改善予想ですが、マイナス圏内に留まる見込です。

製造業と非製造業に分けて見ると、製造業ではプラス17.7となり、前回比で13.5ポイント改善しました。2024年1月~3月は大幅悪化予想であるものの、2024年4月~6月は改善予想となっています。非製造業はプラス13.8となり、前回比で11.9ポイント改善しました。2024年1月~3月は大幅悪化予想であるものの、2024年4月~6月は改善予想となっています。

### Ⅲ. 製品在庫水準

(小数点第2位を四捨五入)

製品在庫水準の推移…… (全産業)

(%)

	2020		2021				2022				2023				2024	
	10~	1~	4~	7~	10~	1~	4~	7~	10~	1~	4~	7~	10~	1~	4~	
	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	
不足	7.9	8.5	10.3	12.1	12.3	13.3	13.1	13.2	11.0	9.7	7.8	9.0	8.2	8.8	8.5	
適正	86.1	84.3	83.5	82.1	84.2	82.0	82.3	81.2	84.1	83.8	84.3	84.0	85.8	84.5	86.4	
過剰	6.1	7.3	6.3	5.7	3.5	4.7	4.7	5.6	4.9	6.5	7.8	7.0	6.1	6.7	5.2	
D . I .	1.8	1.2	4.0	6.4	8.8	8.6	8.4	7.6	6.1	3.2	0.0	2.0	2.1	2.1	3.3	

製品在庫水準の推移…… (うち製造業のみ)

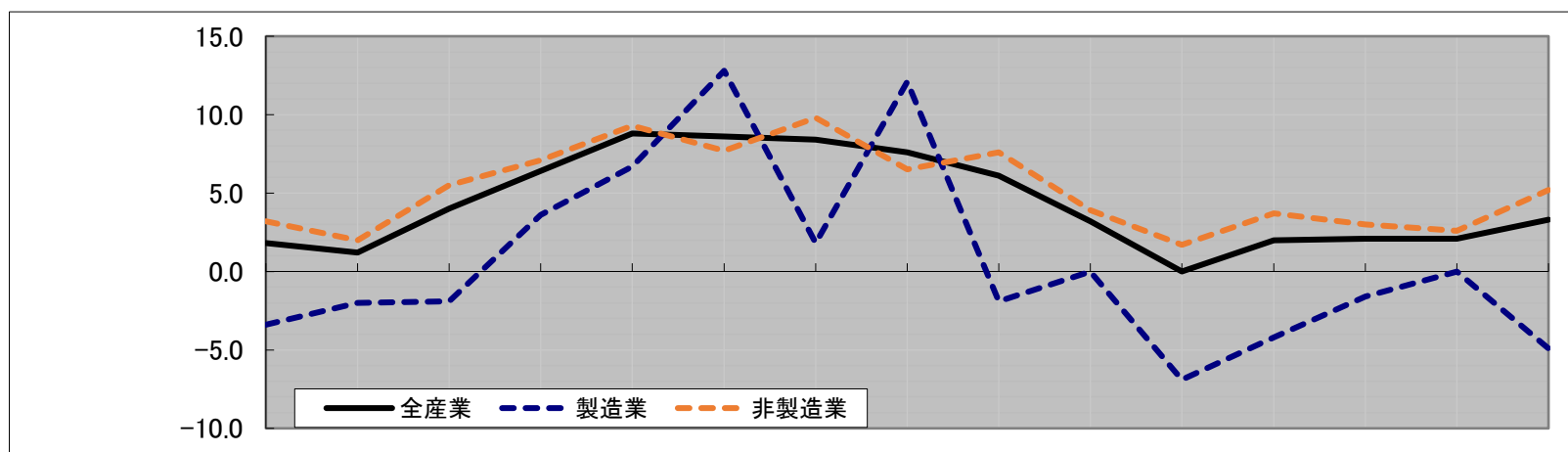
(%)

	2020		2021				2022				2023				2024	
	10~	1~	4~	7~	10~	1~	4~	7~	10~	1~	4~	7~	10~	1~	4~	
	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	
不足	5.1	7.8	7.4	12.7	10.0	16.4	10.5	19.0	11.3	15.4	8.2	8.3	8.1	9.7	4.8	
適正	86.4	82.4	83.3	78.2	86.7	80.0	80.7	74.1	75.5	69.2	76.7	79.2	82.3	80.6	85.5	
過剰	8.5	9.8	9.3	9.1	3.3	3.6	8.8	6.9	13.2	15.4	15.1	12.5	9.7	9.7	9.7	
D . I .	-3.4	-2.0	-1.9	3.6	6.7	12.8	1.8	12.1	-1.9	0.0	-6.9	-4.2	-1.6	0.0	-4.9	

製品在庫水準の推移…… (うち非製造業のみ)

(%)

	2020		2021				2022				2023				2024	
	10~	1~	4~	7~	10~	1~	4~	7~	10~	1~	4~	7~	10~	1~	4~	
	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	
不足	8.6	8.6	11.0	12.0	12.8	12.6	13.6	11.9	10.9	8.6	7.7	9.2	8.2	8.6	9.3	
適正	86.0	84.8	83.5	83.1	83.7	82.4	82.6	82.8	85.8	86.8	86.2	85.2	86.6	85.4	86.6	
過剰	5.4	6.6	5.5	4.9	3.5	5.0	3.8	5.4	3.3	4.7	6.1	5.5	5.2	6.0	4.1	
D . I .	3.2	2.0	5.5	7.1	9.3	7.7	9.8	6.5	7.6	3.9	1.7	3.7	3.0	2.6	5.2	



製品在庫水準D.I.はプラス2.1となり前回比0.1ポイント改善となりました。

製造業はマイナス1.6と前回比で2.6ポイント改善となりました。2024年1月~3月は改善予想、2024年4月~6月は悪化予想です。非製造業はプラス3.0と前回比で0.7ポイント悪化となりました。2024年1月~3月はプラス幅が減少するものの、2024年4月~6月はプラス幅が増加していく予想です。

#### IV. 資金繰状況

(小数点第2位を四捨五入)

資金繰状況の推移…… (全産業) (%)

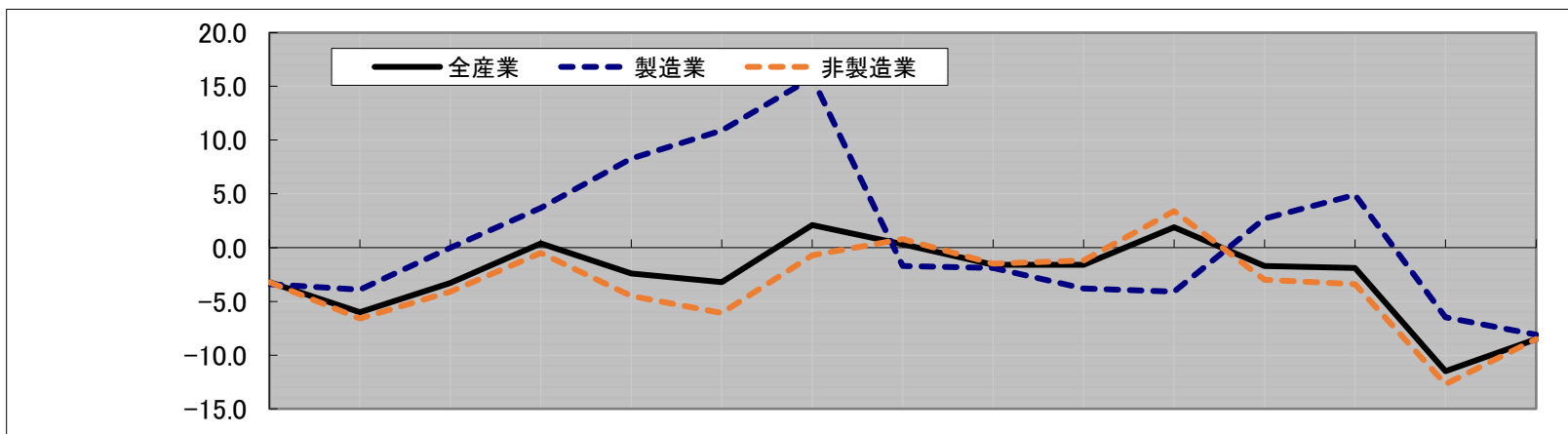
	2020														見込		予測			
	2020				2021				2022				2023				2024			
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月					
ゆるい	13.2	13.3	14.0	16.8	13.4	15.8	16.9	15.0	14.9	16.8	14.3	14.3	13.6	12.1	11.5					
普通	70.4	67.3	68.8	66.8	70.8	65.2	68.3	70.2	68.6	64.7	73.2	69.7	70.9	64.2	68.5					
厳しい	16.4	19.4	17.3	16.4	15.8	19.0	14.8	14.7	16.5	18.4	12.4	16.0	15.5	23.6	20.0					
D . I .	-3.2	-6.0	-3.3	0.4	-2.4	-3.2	2.1	0.3	-1.6	-1.6	1.9	-1.7	-1.9	-11.5	-8.5					

資金繰状況の推移…… (うち製造業のみ) (%)

	2020														見込		予測			
	2020				2021				2022				2023				2024			
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月					
ゆるい	15.3	11.8	14.8	18.2	20.0	21.8	21.1	12.1	7.5	13.5	12.3	12.3	21.0	14.5	11.3					
普通	66.1	72.5	70.4	67.3	68.3	67.3	73.7	74.1	83.0	69.2	71.2	78.1	62.9	64.5	69.4					
厳しい	18.6	15.7	14.8	14.5	11.7	10.9	5.3	13.8	9.4	17.3	16.4	9.6	16.1	21.0	19.4					
D . I .	-3.4	-3.9	0.0	3.7	8.3	10.9	15.8	-1.7	-1.9	-3.8	-4.1	2.7	4.9	-6.5	-8.1					

資金繰状況の推移…… (うち非製造業のみ) (%)

	2020														見込		予測			
	2020				2021				2022				2023				2024			
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月					
ゆるい	12.7	13.7	13.8	16.4	12.1	14.6	16.0	15.7	16.4	17.5	14.8	14.8	11.9	11.6	11.6					
普通	71.5	66.0	68.3	66.7	71.2	64.8	67.2	69.3	65.8	63.8	73.7	67.4	72.8	64.2	68.3					
厳しい	15.8	20.3	17.9	16.9	16.6	20.7	16.7	14.9	17.8	18.7	11.4	17.8	15.3	24.3	20.1					
D . I .	-3.2	-6.6	-4.1	-0.5	-4.5	-6.1	-0.7	0.8	-1.5	-1.2	3.4	-3.0	-3.4	-12.7	-8.5					



資金繰り状況D.I.は全産業でマイナス1.9と前回比0.2ポイント悪化しています。製造業においてはプラス4.9と前回比2.2ポイント改善しています。非製造業はマイナス3.4と前回比0.4ポイント悪化しています。2024年1月以降はマイナス12.7とマイナス幅は拡大していくと予想しています。全産業において、従前からの課題である原材料高、人件費高騰等コスト増加に加え、令和6年能登半島地震の影響が反映していると考えられます。

## V. 利益状況

(小数点第2位を四捨五入)

利益状況の推移…… (全産業)

(%)

見込 予測

	2020	2021				2022				2023				2024	
	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月
黒字	44.6	31.5	34.2	38.6	42.9	36.7	34.6	35.4	42.4	39.8	40.0	39.1	47.6	32.7	33.3
収支トントン	27.9	33.1	34.9	31.4	33.2	29.4	41.6	39.5	31.1	35.3	63.8	39.7	33.6	45.2	50.3
償却後赤字	27.5	35.5	30.9	30.0	23.9	33.9	23.8	25.1	26.5	24.9	23.2	21.3	18.8	22.1	16.4
D . I .	17.1	-4.0	3.3	8.6	19.0	2.8	10.8	10.3	15.9	14.9	16.8	17.8	28.8	10.6	16.9

利益状況の推移…… (うち製造業のみ)

(%)

見込 予測

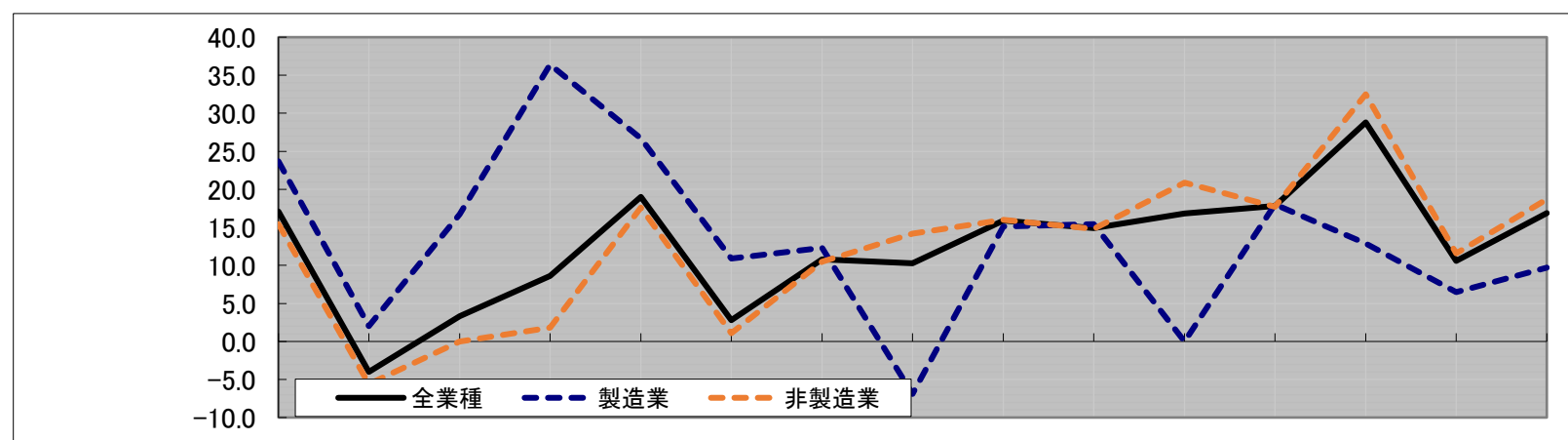
	2020	2021				2022				2023				2024	
	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月
黒字	54.2	39.2	42.6	54.5	55.0	41.8	38.6	29.3	41.5	46.2	31.5	45.8	41.9	35.5	27.4
収支トントン	15.3	23.5	31.5	27.3	16.7	27.3	35.1	34.5	32.1	23.1	37.0	26.4	29.0	35.5	54.8
償却後赤字	30.5	37.3	25.9	18.2	28.3	30.9	26.3	36.2	26.4	30.8	31.5	27.8	29.0	29.0	17.7
D . I .	23.7	2.0	16.7	36.4	26.7	10.9	12.3	-6.9	15.1	15.4	0.0	18.0	12.9	6.5	9.7

利益状況の推移…… (うち非製造業のみ)

(%)

見込 予測

	2020	2021				2022				2023				2024	
	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月
黒字	42.1	29.4	32.1	34.7	40.6	35.6	33.8	36.8	42.5	38.5	42.1	37.3	48.9	32.1	34.7
収支トントン	31.2	35.5	35.8	32.4	36.4	29.9	42.9	40.6	30.9	37.7	36.7	43.2	34.7	47.4	49.3
償却後赤字	26.7	35.0	32.1	32.9	23.0	34.5	23.3	22.6	26.5	23.7	21.2	19.6	16.4	20.5	16.0
D . I .	15.4	-5.6	0.0	1.8	17.6	1.1	10.5	14.2	16.0	14.8	20.9	17.7	32.5	11.6	18.7



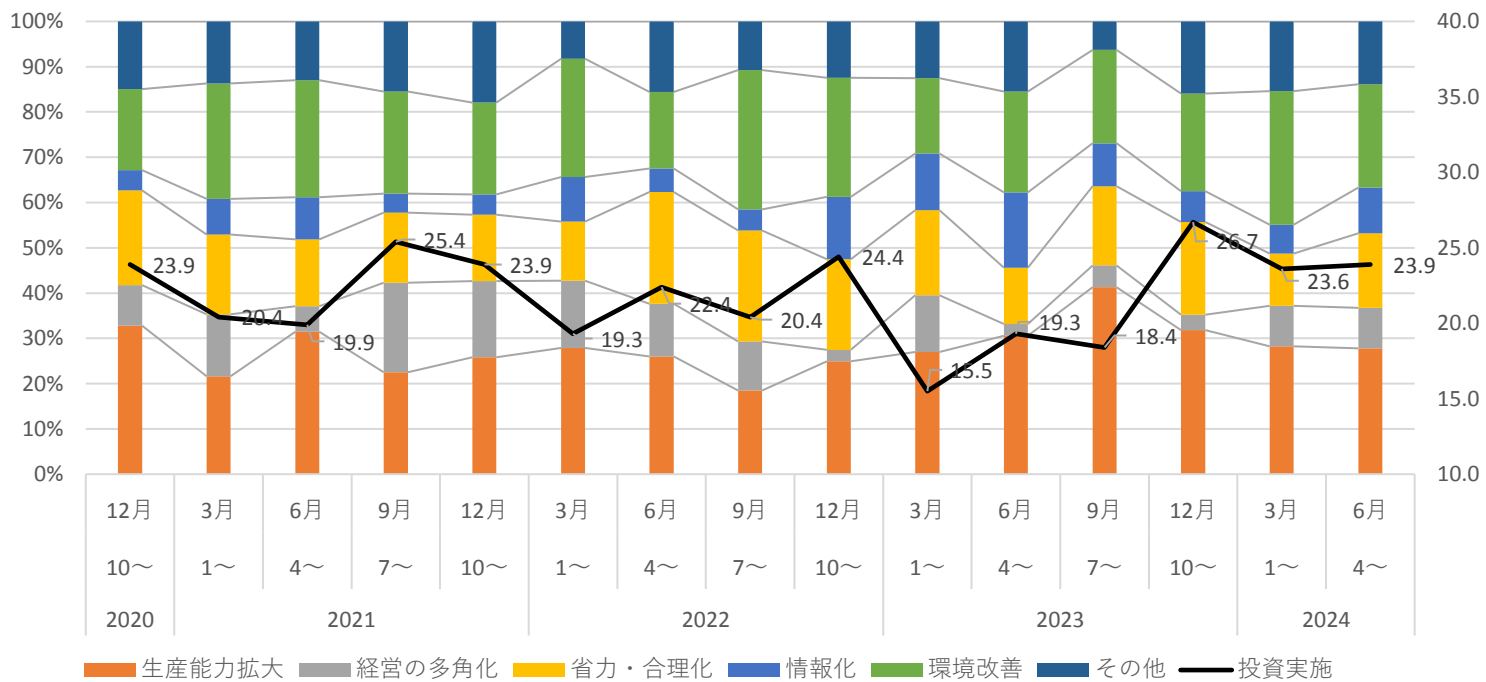
全産業の利益状況D.I.はプラス28.8と前回比11.0ポイントの大幅改善となっています。製造業では12.9と前回比マイナス5.1ポイントの悪化、非製造業ではプラス32.5と前回比14.8ポイントの大幅改善となっています。

## VI. 設備投資動向

(小数点第2位を四捨五入)

															見込	予測	
	2020	2021				2022				2023				2024			
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月		
投資実施	23.9	20.4	19.9	25.4	23.9	19.3	22.4	20.4	24.4	15.5	19.3	18.4	26.7	23.6	23.9		
投資せず	76.1	79.4	80.1	74.6	76.1	80.7	77.6	79.6	75.6	84.5	80.7	81.6	73.3	76.4	76.1		

															見込	予測	
	2020	2021				2022				2023				2024			
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月		
生産能力拡大	32.8	21.6	31.5	22.5	25.8	27.9	26.0	18.5	25.0	27.0	30.6	41.3	31.8	28.2	27.8		
経営の多角化	9.0	13.7	5.6	19.7	16.8	14.8	11.7	10.8	2.5	12.5	2.6	4.8	3.4	9.0	8.9		
省力・合理化	20.9	17.6	14.8	15.5	14.6	13.1	24.7	24.6	20.0	18.8	12.4	17.5	20.5	11.5	16.5		
情報化	4.5	7.8	9.3	4.2	4.5	9.8	5.2	4.6	13.8	12.5	16.6	9.5	6.8	6.4	10.1		
環境改善	17.9	25.5	25.9	22.5	20.2	26.2	16.9	30.8	26.3	16.7	22.3	20.6	21.6	29.5	22.8		
その他	14.9	13.7	13.0	15.5	17.9	8.2	15.6	10.8	12.5	12.5	15.5	6.3	15.9	15.4	13.9		



設備投資を実施した企業は26.7%となり、前回比8.3ポイント上昇しています。2024年1月以降の設備投資意欲は減退すると予想しています。

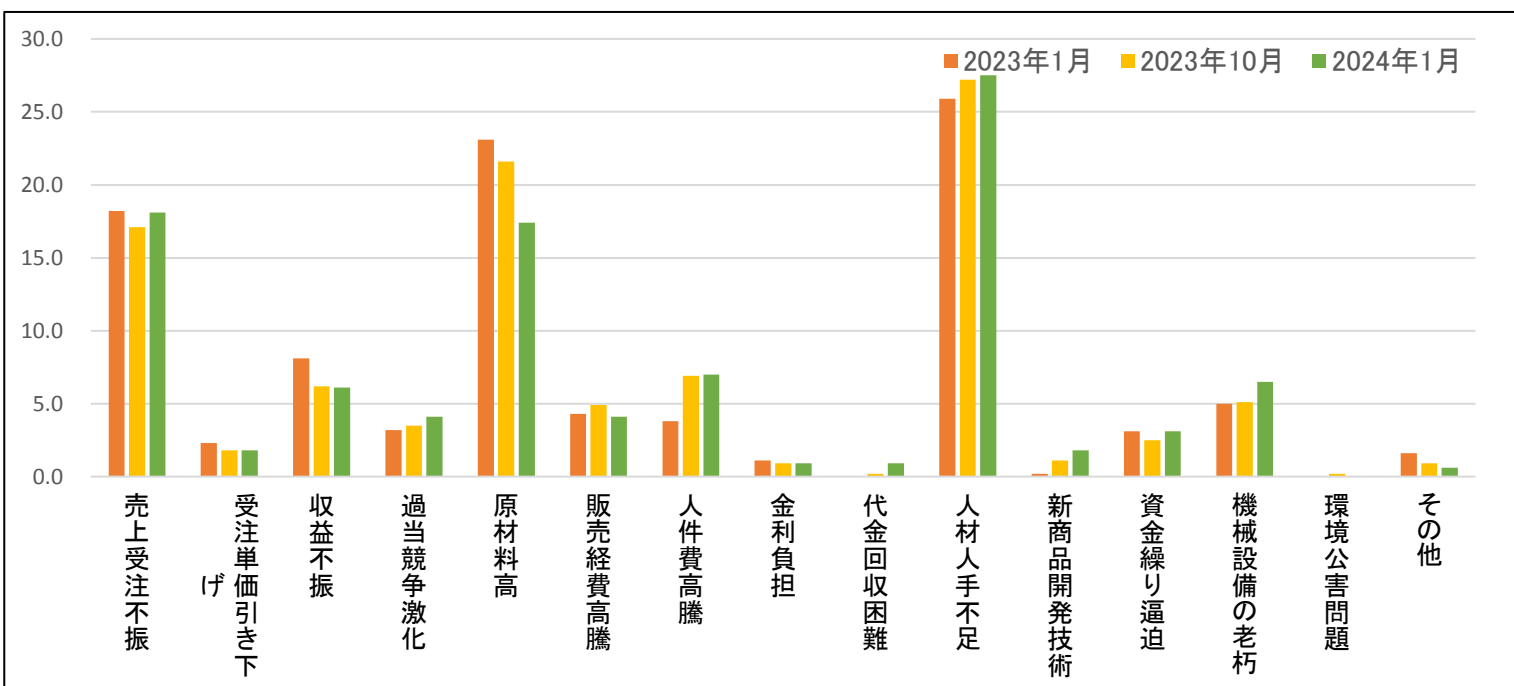
設備投資を実施した目的については、「環境改善」については21.6%と前回比1.0ポイント上昇しました。「省力・合理化」が20.5%となり前回比3.0ポイント上昇しました。一方で、「生産能力拡大」が31.8%となり前回比9.5ポイント下降しました。「情報化」が6.8%となり前回比2.7ポイント下降しました。



## VII. 当面の経営上の問題点

(%：複数回答あり) (小数点第2位を四捨五入)

	2023年1月 (前年同月)	2023年10月 (前回)	2024年1月 (今回)		前回比増減	
			(うち製造業)	(うち非製造業)		
売上受注不振	18.2	17.1	18.1	20.2	17.6	1.0
受注単価引き下げ	2.3	1.8	1.8	0.9	2.1	0.0
収益不振	8.1	6.2	6.1	10.1	5.1	▲ 0.1
過当競争激化	3.2	3.5	4.1	2.8	4.4	0.6
原材料高	23.1	21.6	17.4	18.3	17.1	▲ 4.2
販売経費高騰	4.3	4.9	4.1	2.8	4.4	▲ 0.8
人件費高騰	3.8	6.9	7.0	5.5	7.4	0.1
金利負担	1.1	0.9	0.9	0.0	1.2	0.0
代金回収困難	0.0	0.2	0.9	0.0	1.2	0.7
人材人手不足	25.9	27.2	27.5	22.0	28.9	0.3
新商品開発技術	0.2	1.1	1.8	3.7	1.4	0.7
資金繰り逼迫	3.1	2.5	3.1	2.8	3.2	0.6
機械設備の老朽	5.0	5.1	6.5	11.0	5.3	1.4
環境公害問題	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	▲ 0.2
その他	1.6	0.9	0.6	0.0	0.7	▲ 0.3



当面の経営上の問題点として前回より引続き「人材人手不足」が最も多く27.5%となっています。次いで高い項目は「売上受注不振」の18.1%となります。前回比プラス1.0ポイントとなっており増加傾向となっています。3番目に高い項目は「原材料高」の17.4%となります。前回比マイナス4.2ポイントとなっており、下降傾向にあります。

## 富山県内の中小企業の人材確保について

回答企業数	330社（うち、製造業62社、非製造業268社）
調査企業数	646社
調査時期	2024年1月
調査方法	インターネットによる当行取引先へのアンケート実施 （中小企業動向調査と同時に実施）

今回の人材確保に関するアンケートでは、十分な人材を確保できていないと回答した企業が半数を占めました。新型コロナウイルス感染症の感染症法に基づく位置づけが、2023年5月8日から5類感染症に移行したことにより経済活動が正常に戻り、人手不足感がより深刻化しており、多くの企業で人材確保や人手不足解消に向けた対応が喫緊の課題となっています。

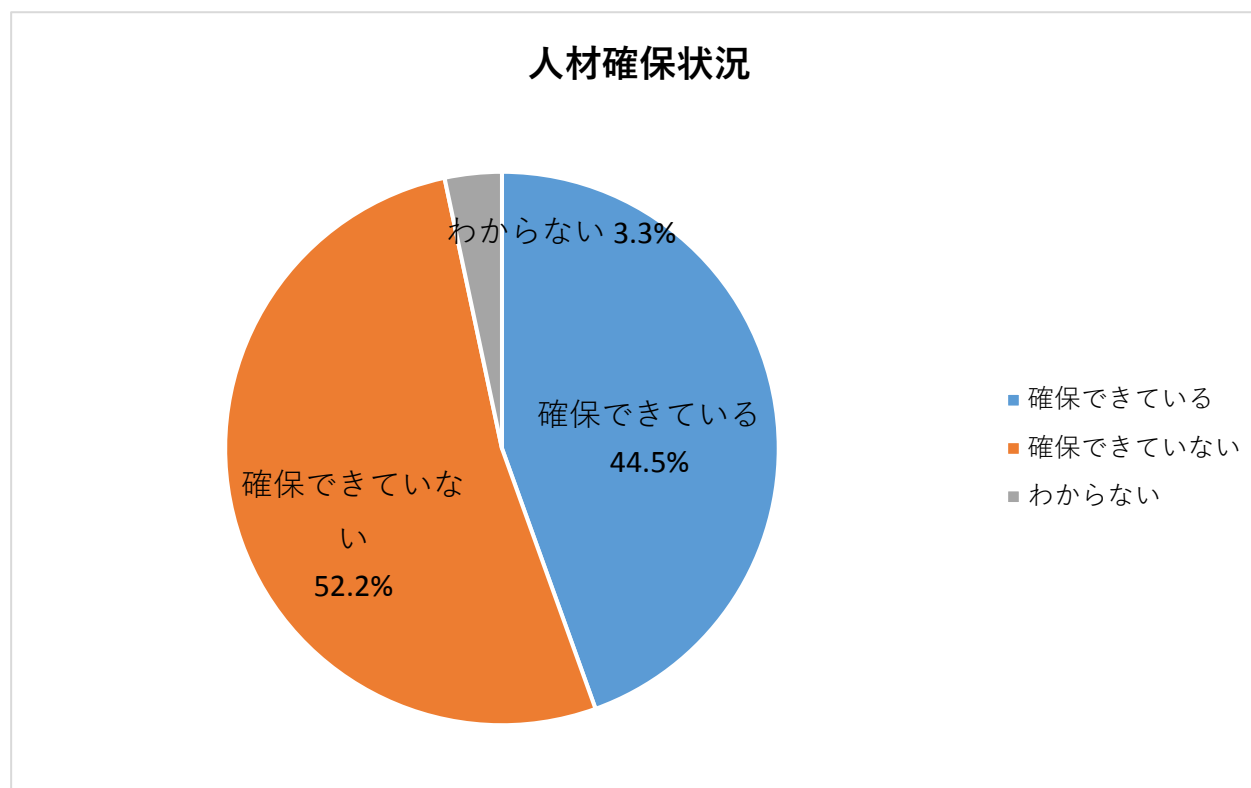
人材確保が必要な理由は、慢性的な人手不足、従業員の高齢化が挙げられます。正社員が不足する職種としては技術者、生産等の現場担当者、専門職（資格、高度知識を有する）が約60%を占めており、人材確保ができないことにより、新規事業や事業拡大を見合わせる企業も一定数いる結果となりました。

各企業は優秀な人材の確保及び人材定着のため、賃金改定の実施、福利厚生の充実、休暇取得のしやすい制度、各種求人媒体での採用活動、自社HPの見直し、人材サービス会社の活用と様々な自助努力を実施しています。

今後も人手不足が続くことが予想される中、ITツールやアウトソーシング等を活用し、業務の効率化・省力化のためのDX化が更に進むことが想定されます。

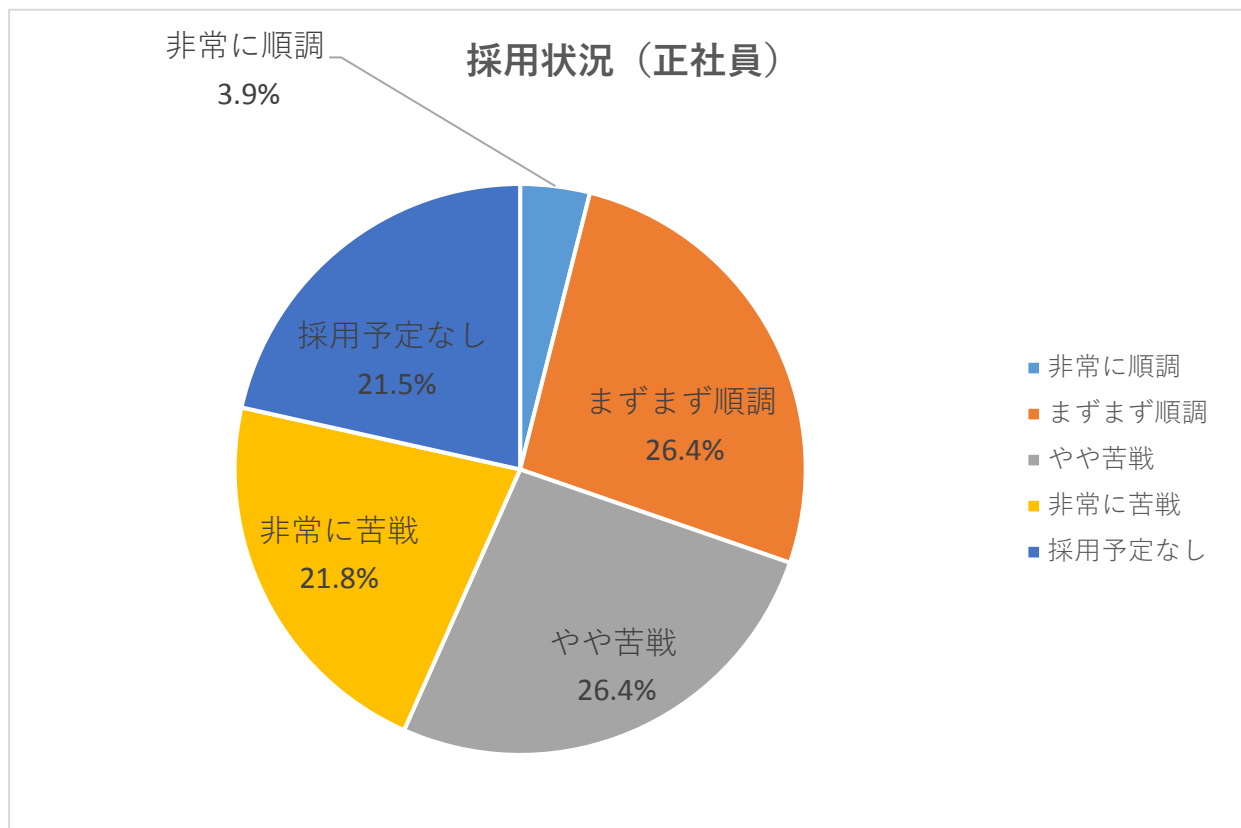
### 人材確保について

#### 設問1 : 現状、人材は十分に確保されていますか。



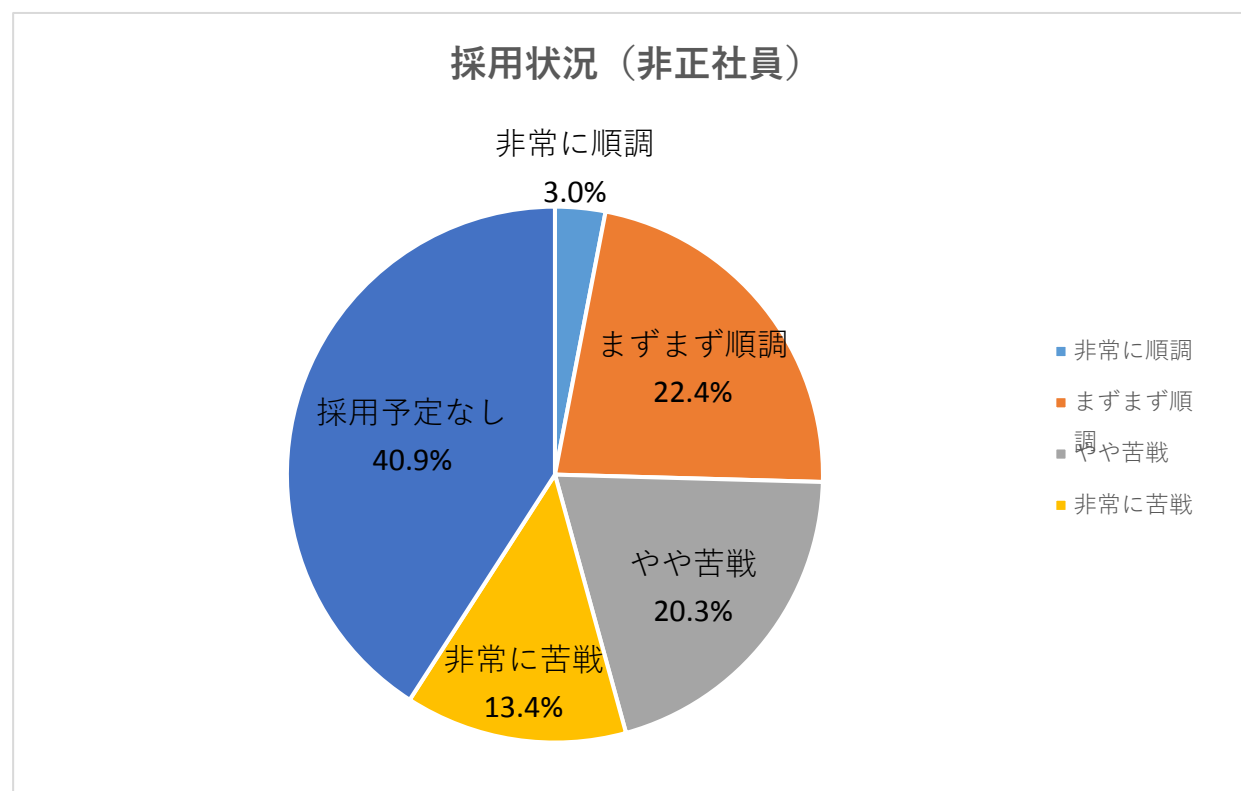
「確保できている」と回答した企業が44.5%、「確保できていない」と回答した企業が52.2%となりました。半数以上の企業においては人材確保不足の声があります。

**設問2 : コロナ禍以降の採用は順調に行われていますか。(正社員)**



「まずまず順調」、「やや苦戦」と回答した企業が同率26.4%と最も多く、次いで「非常に苦戦」が21.8%となっています。「採用予定なし」と回答した企業は21.5%となっています。  
半数弱の企業において、コロナ禍以降、正社員の採用活動に苦戦している様子がうかがえます。

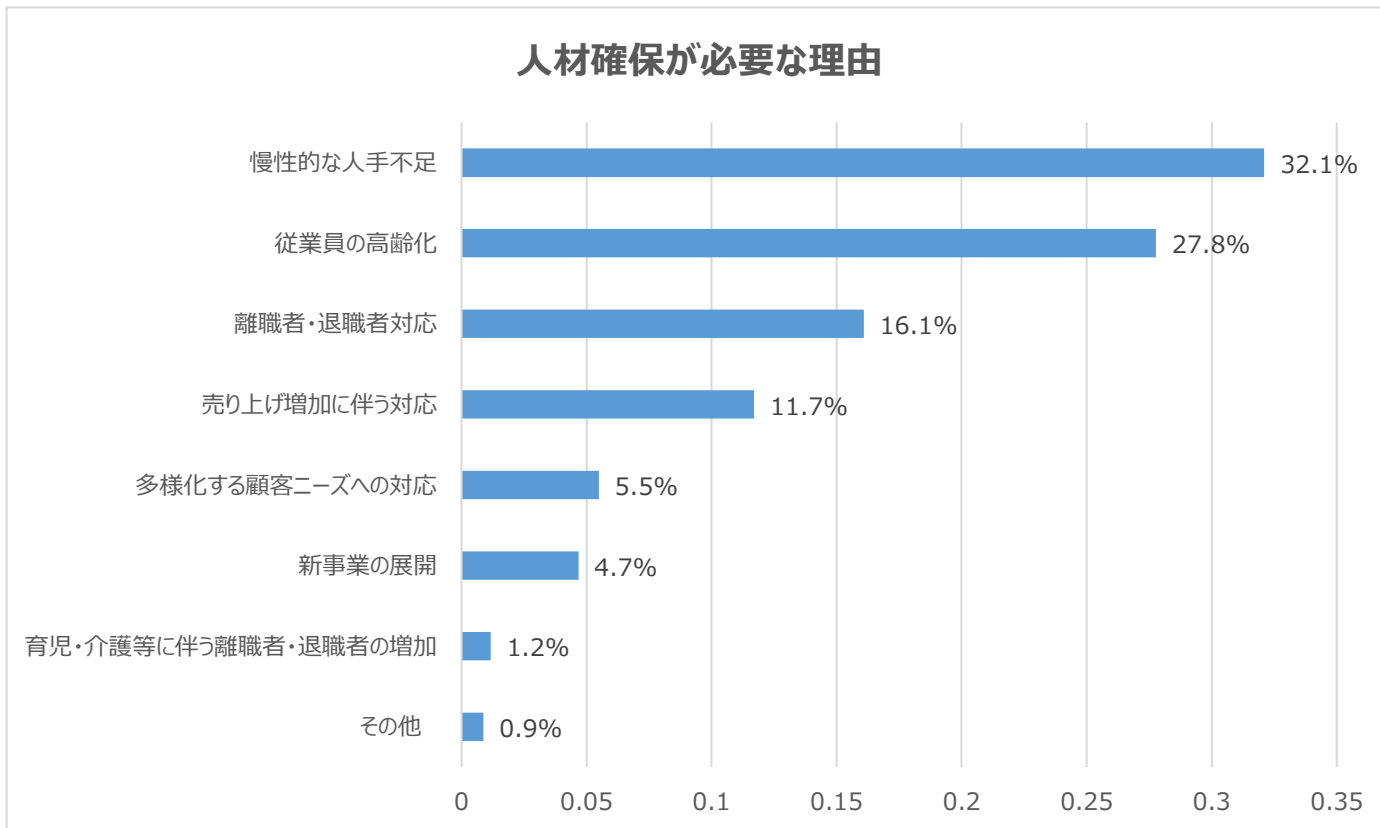
**設問3 : コロナ禍以降の採用は順調に行われていますか。(非正社員)**



「採用予定なし」と回答した企業が40.9%と最も多く、次いで「まずまず順調」が22.4%、「やや苦戦」が20.3%、「非常に苦戦」が13.4%となっています。

#### 設問4 : 人材確保が必要な理由はなんですか。

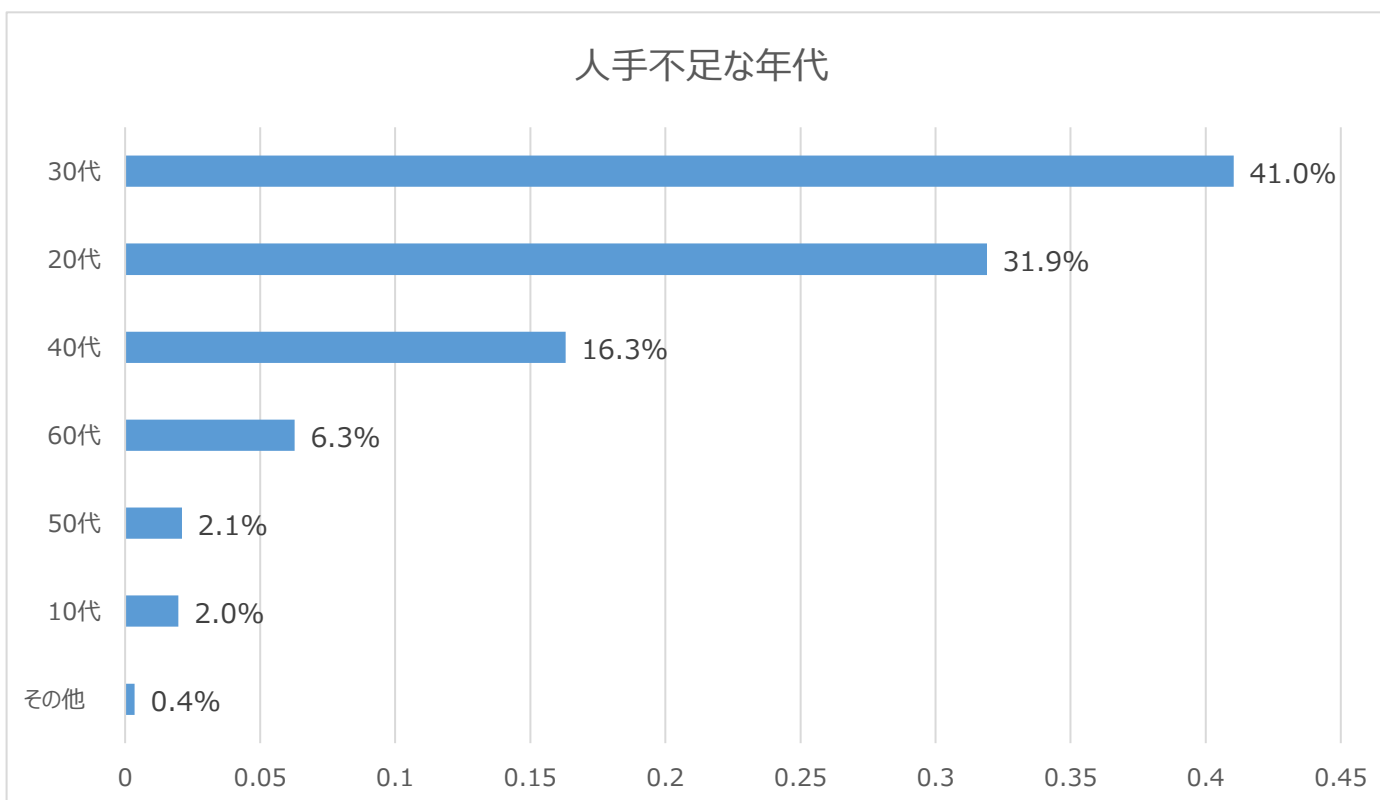
※設問1で「確保できていない」と回答された方のみ回答



「慢性的な人手不足」と回答した企業が最も多く32.1%となっています。次いで、「従業員の高齢化」と回答した企業が27.8%となっています。「離職者・退職者対応」と回答した企業が16.1%となっています。

今後更に従業員の高齢化が進むことより、退職者は増加すると予想され、慢性的な人手不足が続くと想定されます。

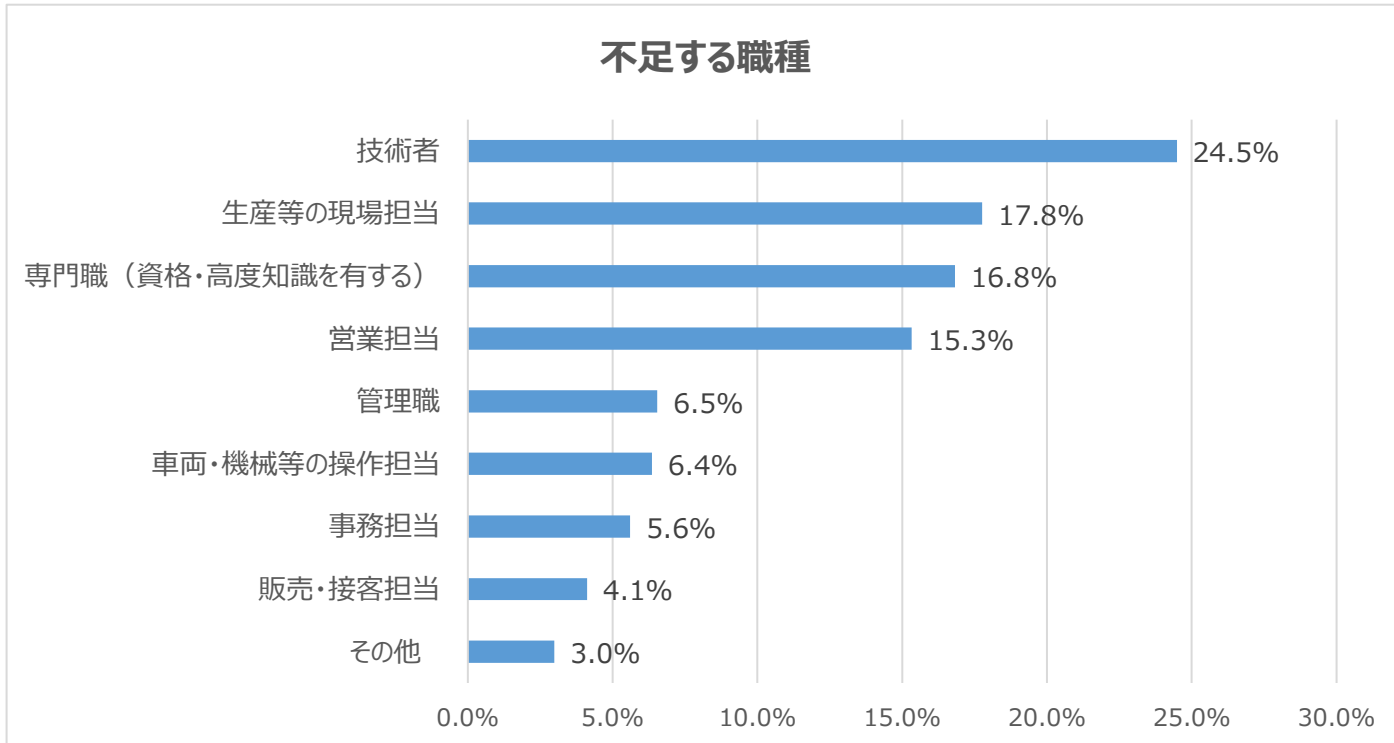
#### 設問5 : 正社員が不足していると感じる年代について教えてください。



「30代」と回答した企業が41.0%と最も多く、次いで「20代」が31.9%、「40代」が16.3%となっています。

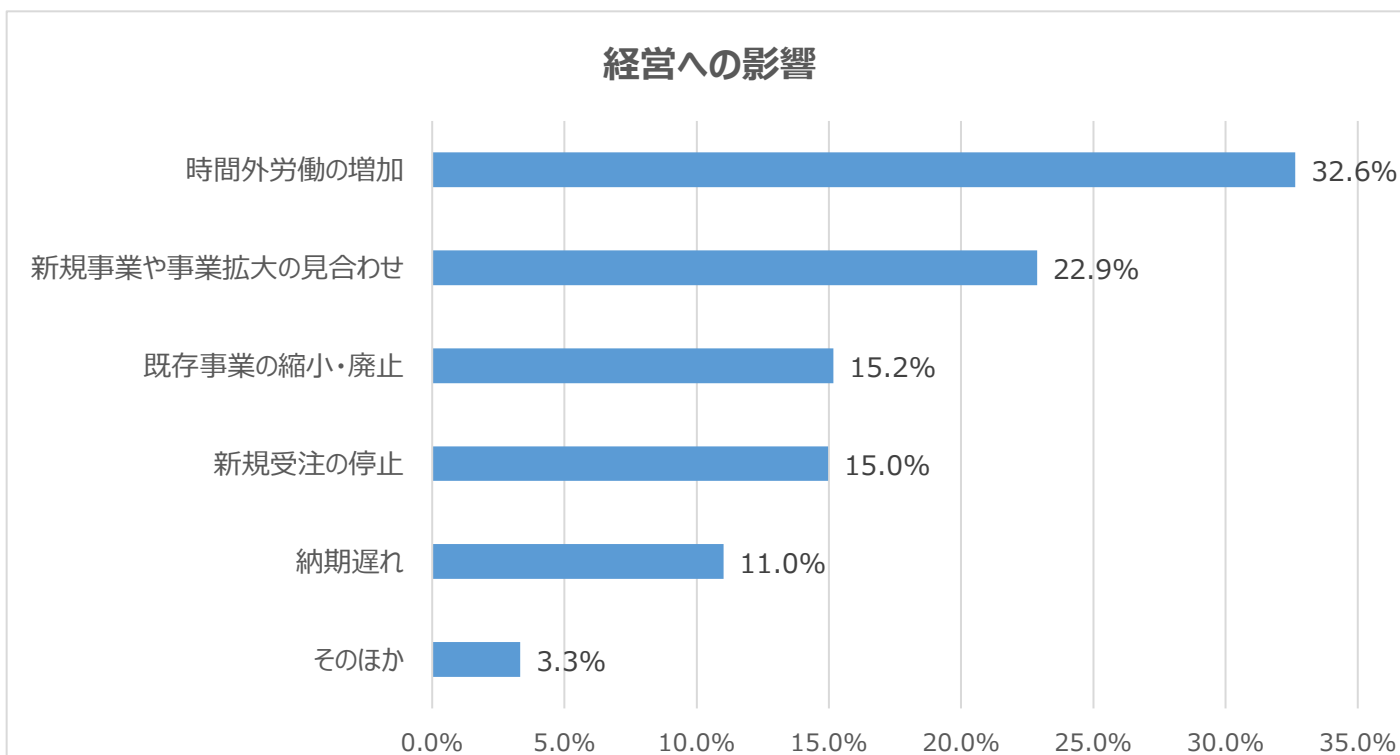
働き盛りの「30代」の正社員不足を感じている企業が多く存在しています。また、次世代を担う「20代」の正社員不足を感じている企業も多くあります。

**設問6 : 正社員が不足する職種について教えてください。**



「技術者」と回答した企業が24.5%となっています。次いで、「生産等の現場担当」が17.8%、「専門職（資格・高度知識を有する）」が16.8%、「営業担当」が15.3%となっています。技術者確保が課題となっている現状が読み取れます。

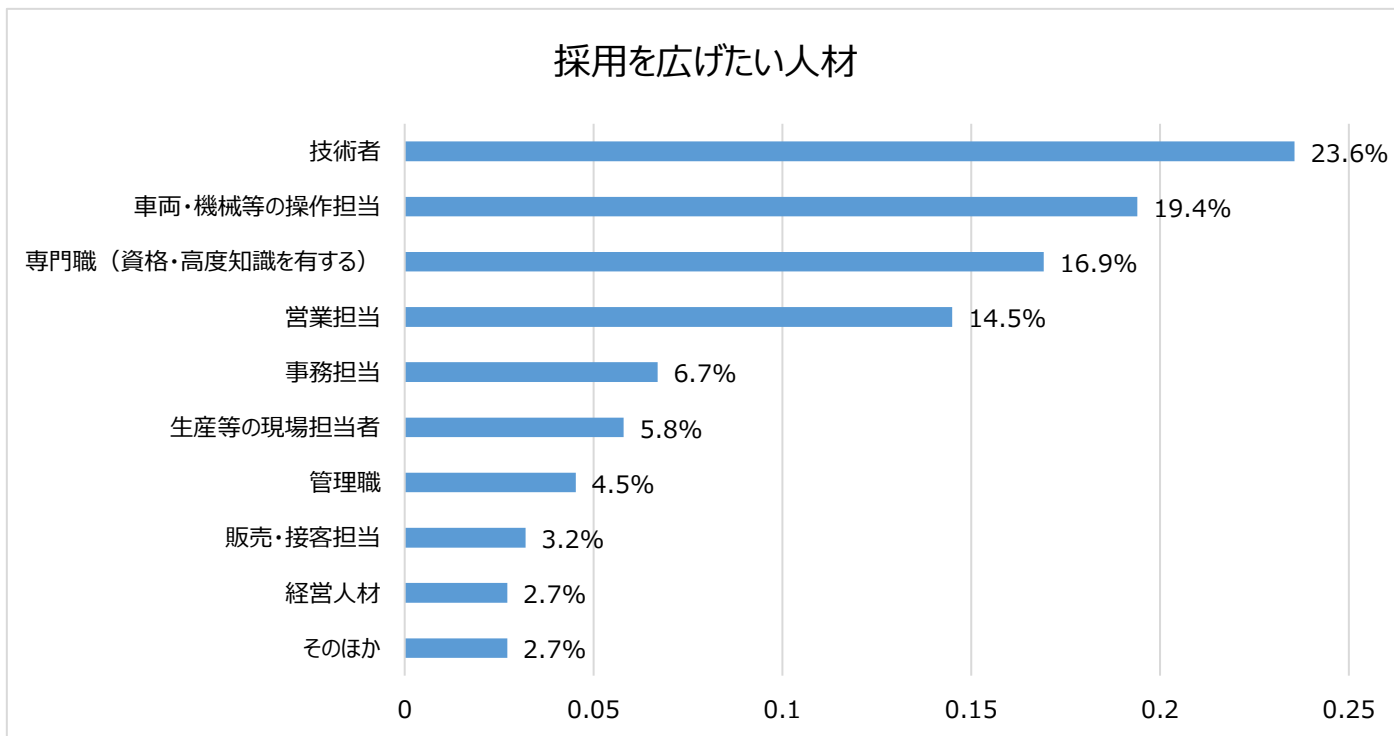
**設問7 : 人材確保ができない場合、経営にどのような影響が起きますか。**



「時間外労働の増加」と回答した企業が32.6%と最も多く、次いで「新規事業や事業拡大の見合わせ」が22.9%、「既存事業の縮小・廃止」が15.2%となっております。既存の従業員1人1人の労働時間や労働密度が高まる中、新規事業への人材投資ができない課題があると考えられます。また、生産性の向上を図ることが喫緊の課題と考えられます。

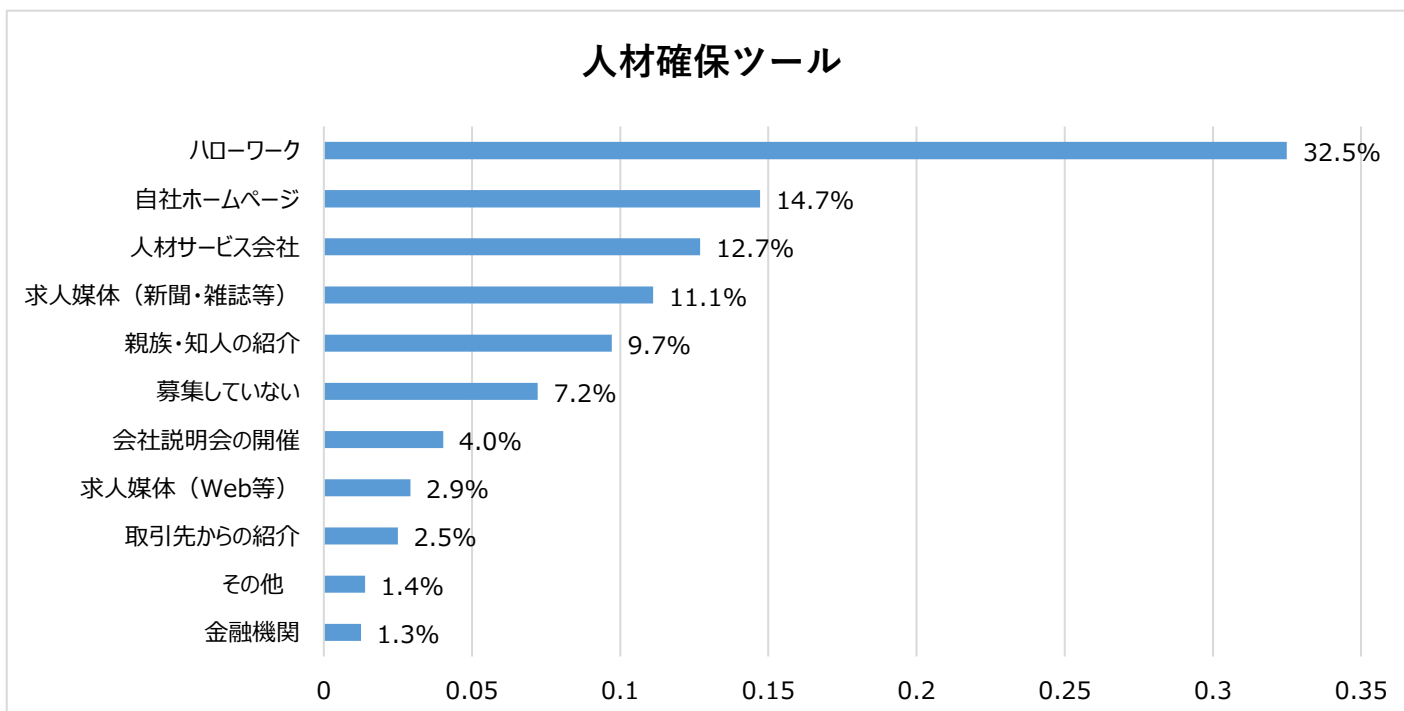
## 設問8 : 今後、採用を広げたい人材を教えてください。

※設問1で「確保できていない」と回答された方のみ回答



「技術者」と回答した企業が23.6%となっています。次いで「車両・機械等の操作担当」が19.4%、「専門職（資格・高度知識を有する）」が16.9%、「営業担当」が14.5%となっています。

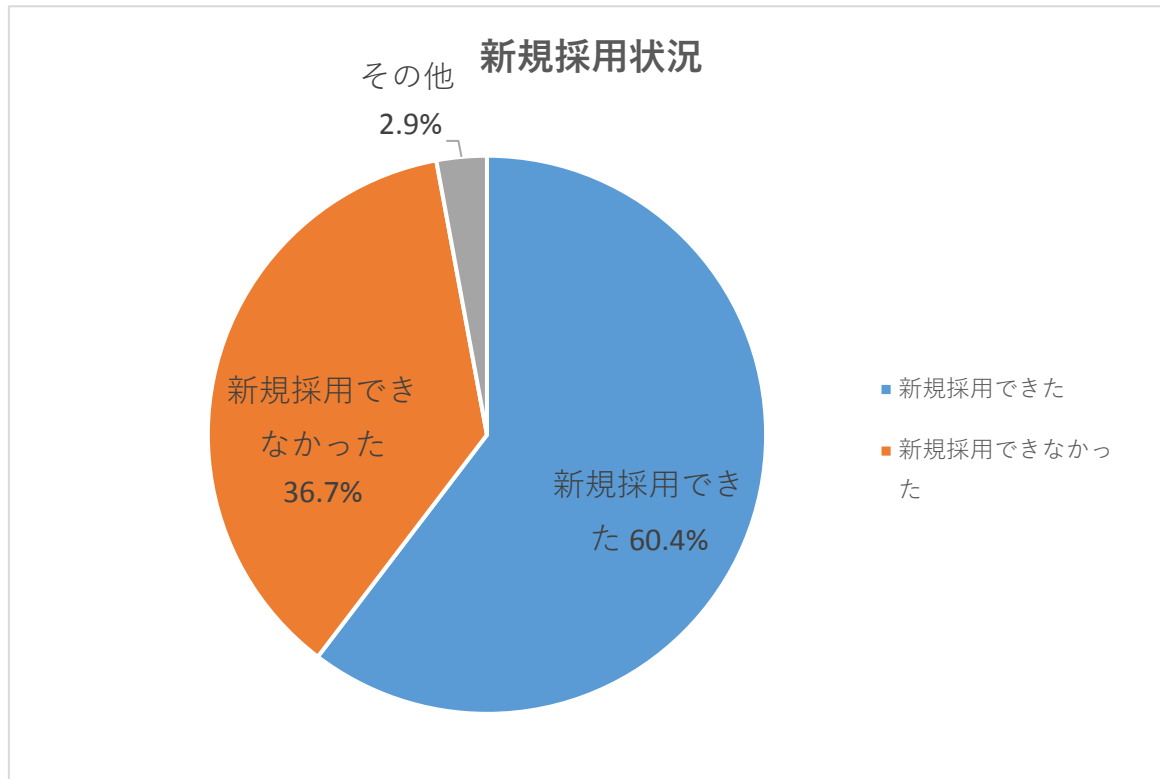
## 設問9 : 新規で人材確保をするためにどのような機関・ツールを利用していますか。



「ハローワーク」と回答した企業が32.5%と最も多く、次いで「自社ホームページ」が14.7%となっています。

人材確保のツールは多様化しており、組み合わせて利用している企業が多いと想定されます。一方で、地縁人縁による人材確保も根強いと考えられます。

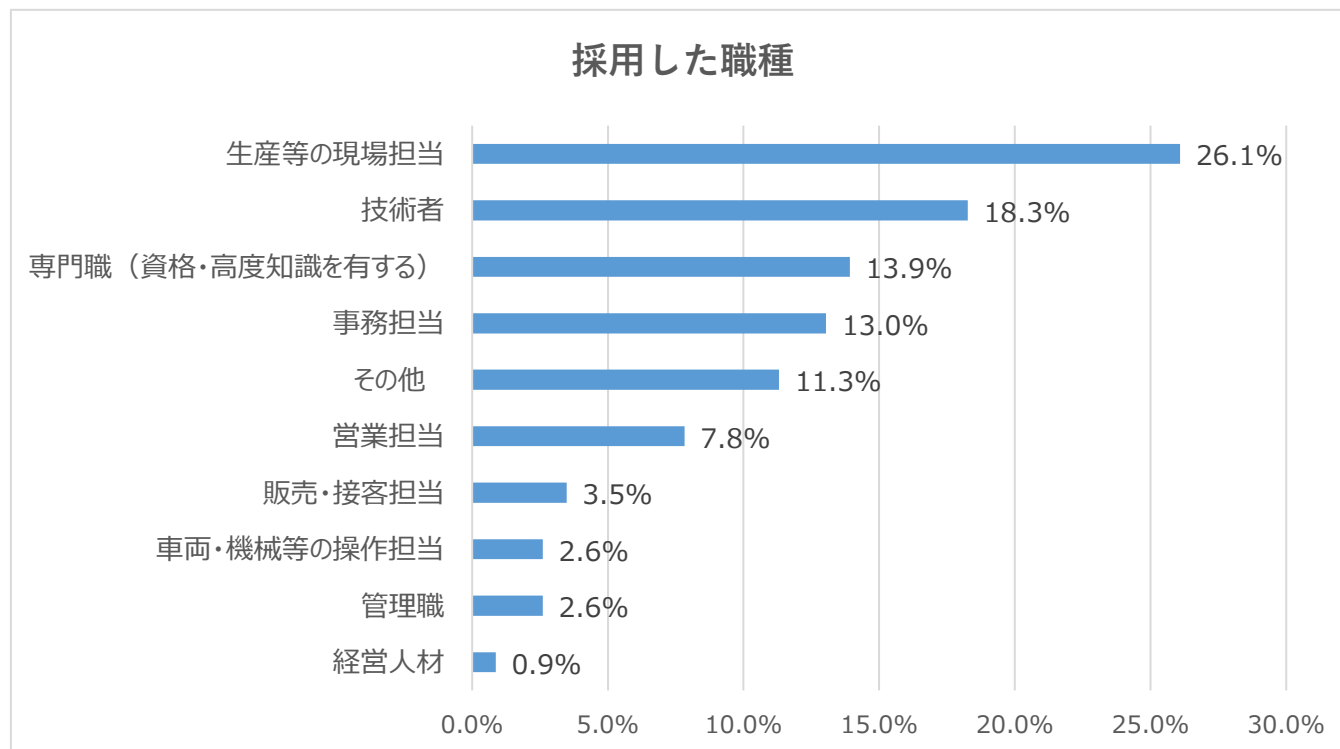
**設問10 : 新規で人材確保をすることができましたか。**



「新規採用できた」と回答した企業が60.4%、「新規採用できなかった」と回答した企業が36.7%となっています。60%以上の企業が新規採用できた結果となっております。

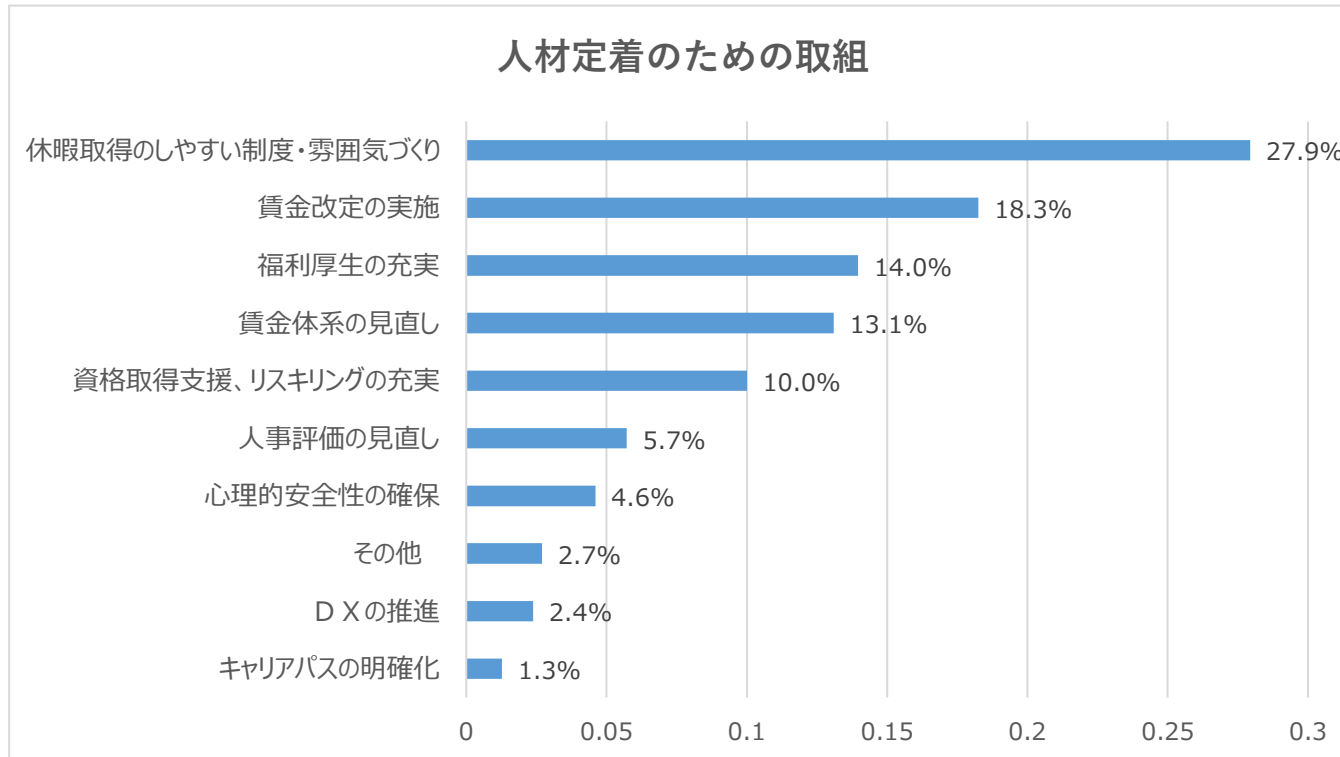
**設問11 : どのような職種の人材確保をすることができましたか。**

※設問9で「人材サービス会社」と回答された方のみ回答



「生産等の現場担当」と回答した企業が26.1%と最も多く、次いで「技術者」が18.7%、「専門職（資格・高度知識を有する）」が13.9%、「事務担当」が13.0%となっています。採用を広げたい人材としては「技術者」が最も多い回答でありましたが、実際に採用している人材は「生産等の現場担当」が多く、人材のミスマッチが発生している可能性があります。一方で、採用した「生産等の現場担当」を入社後に育成していこうという企業側の意図も感じられます。

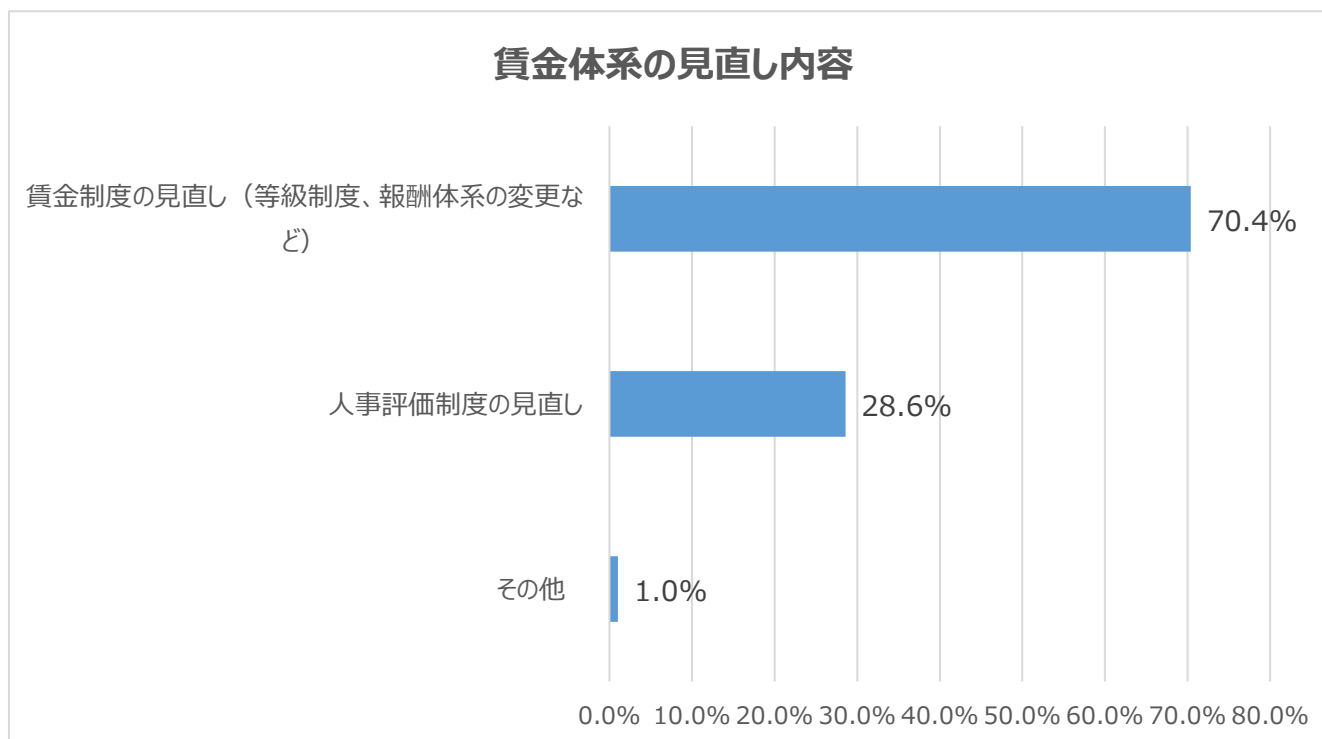
**設問12 : 人材定着のために、どのような取組を実施されていますか。**



「休暇取得のしやすい制度・雰囲気づくり」と回答した企業が27.9%と最も多く、次いで「賃金改定の実施」が18.3%となっています。既存の従業員に対しては、福利厚生を充実させることで、定着率を高めようと思案する企業側の意図が読み取れます。

**設問13 : 賃金体系の見直し内容について教えてください。**

※設問12で「賃金体系の見直し」と回答された方のみ回答

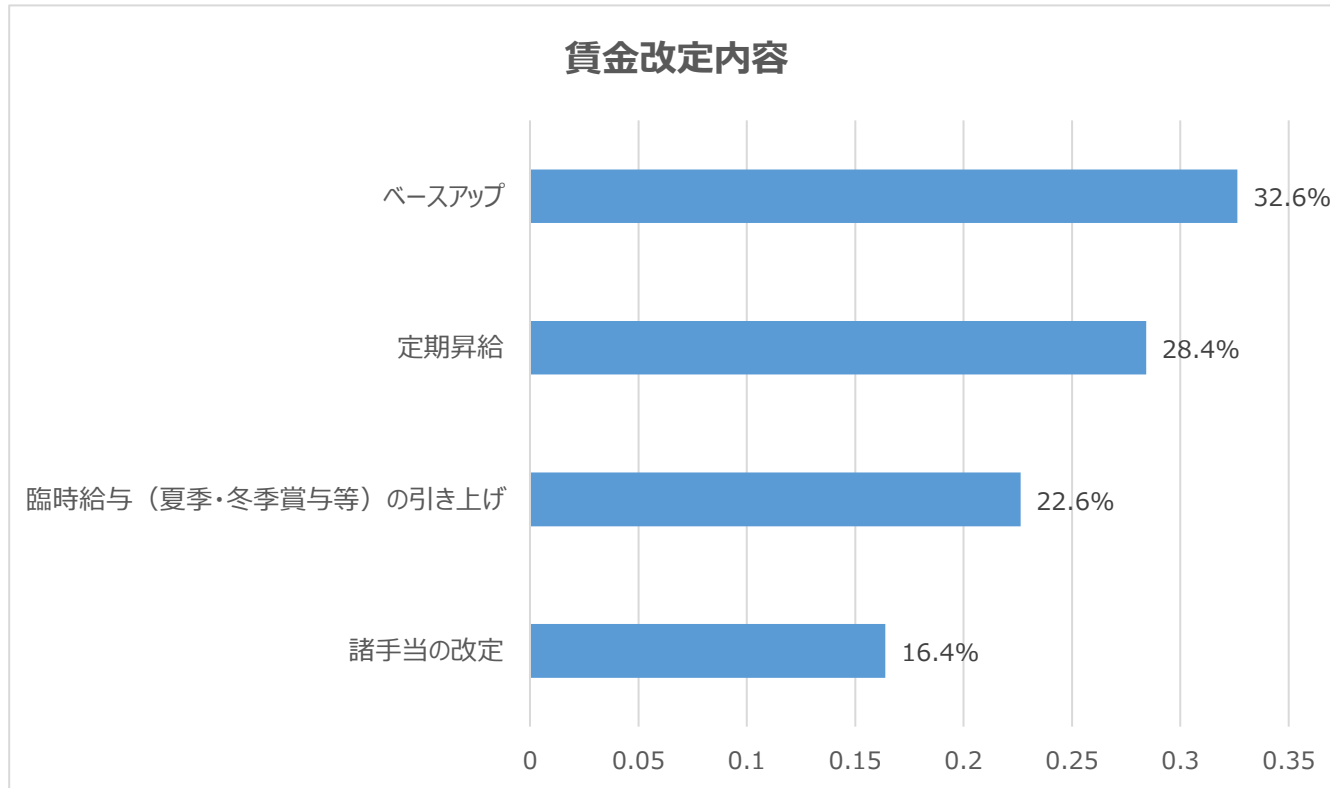


「賃金制度の見直し（等級制度、報酬体系の変更など）」と回答した企業が70.4%、「人事評価制度の見直し」と回答した企業が28.6%となっています。賃金制度を見直すことで人材定着率の向上を図っている企業が大多数を占めています。



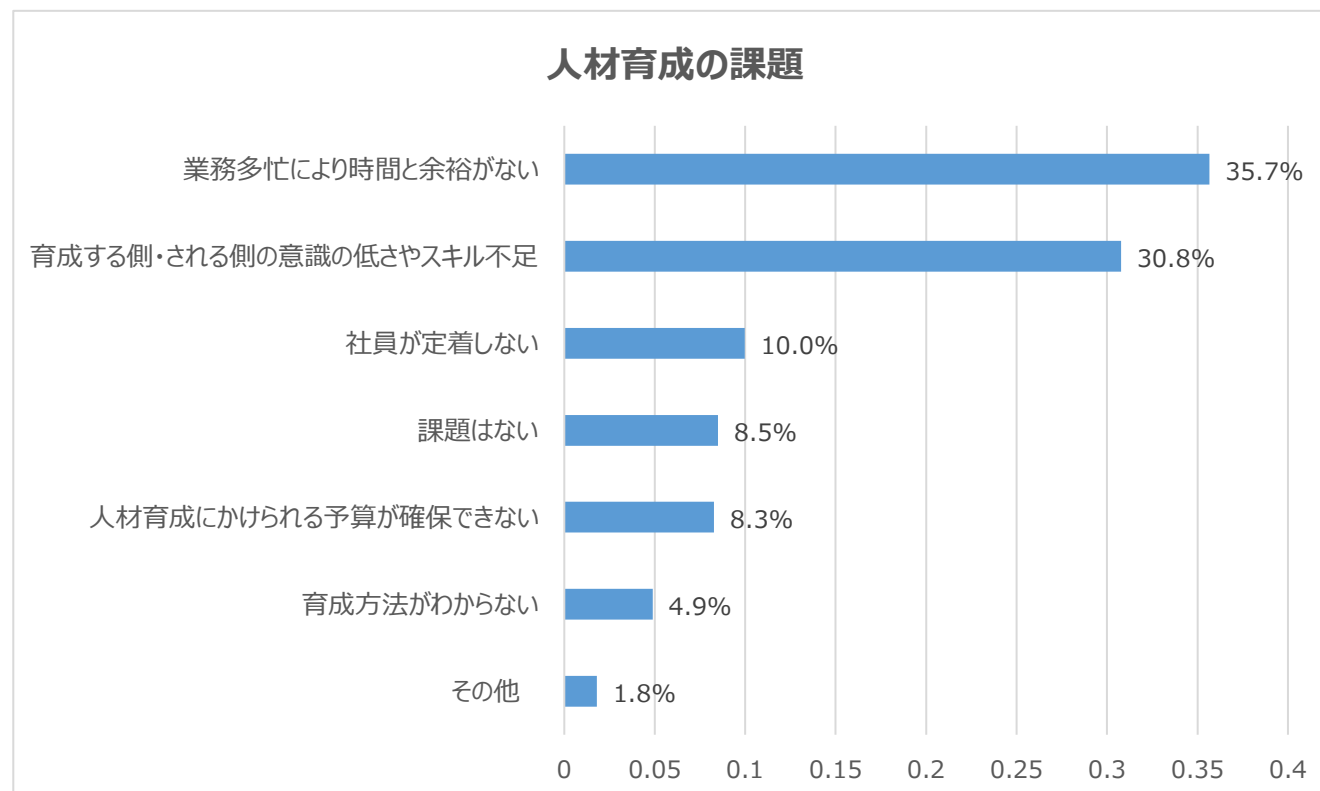
## 設問14 : 賃金改定の内容について教えてください。

※設問12で「賃金改定の実施」と回答された方のみ回答



「ベースアップ」と回答した企業が32.6%、次いで「定期昇給」が28.4%となっています。物価高の影響もあり、ベースアップが最も多い回答となっております。引き続き、物価は上昇しており、2024春もベースアップの動きがあると予想されます。

## 設問15 : 従業員の人材育成についてどのような課題がありますか。



「業務多忙により時間と余裕がない」と回答した企業が35.7%、次いで「育成する側・される側の意識の低さやスキル不足」が30.8%となっています。慢性的な人材不足により、時間的余裕がないことが課題であり、IT化やDX化の推進等により、生産性の向上を図ることで、人材育成の時間を確保するとともに、経営陣・従業員それぞれの意識改革の必要性があると考えられます。

×E

# 法人コンサルティングサービスのご案内

## お客さまのお取り組み

売上増加

成長戦略

経営改善

事業承継

IT・効率化

人事施策

サステナブル

気候変動

ガバナンス



将来のあるべき姿  
を考えたい

経営課題を  
解決したい

サステナブル経営  
を実現したい

幅広いメニューであらゆるステージに対応しています

## コンサルティング面でのサポート

### 【コンサルティングサービス（伴走支援）】

- 成長戦略策定支援サービス
- 経営改善支援サービス
- 各種補助金申請のご支援
- BCP計画策定サポート
- DXコンサルティング
- 人事評価制度・賃金体系

### 【SDGs取組支援サービス】

- お客さまのSDGs宣言のサポートから、SDGsに資する取組みの実行をサポートいたします

### 【カーボンニュートラルサービス】

- お客さまのCO2排出量の算出
- CO2削減ソリューションのご提案
- 再生可能エネルギー導入のご提案
- SBT認証（国際認証）の取得

### 【ビジネスマッチング】

- 経営課題を解決する最適なツールをご提案
- 企業同士のニーズとシーズの引き合わせ
- アウトソーシングニーズ、コストダウンニーズ、不動産ニーズ、リースニーズにも対応

### 【人材紹介】

- 必要な人材を紹介し、お客さまの経営力強化に貢献します

### 【事業承継・M&A】

- 事業承継、M&A、親族承継から第三者承継まで、あらゆる状況に応じた最適なお支援を実施します

## サステナブル面でのサポート

### 【ファーストSDGs私募債（寄贈型）】

- 手数料の優遇金額分を、ご利用のお客さまの目的に応じて寄付を行なう仕組みです

### 【ファースト・サステナビリティ・リンクローン】

- 本枠組みで、お客さまのサステナビリティの将来計画するお取組みに対して、第三者評価機関から評価を得て対外的にアピールします
- お客さまの経営理念、行動指針の具現化へのESG目標を定め行動することで、お客様の持続可能性と社会への貢献を高めることをサポートします

### 【ファースト・グリーンローン】

- 高い環境効果があるグリーンプロジェクトをファイナンスでサポートいたします。本枠組みの中で、外部評価機関の認証を取得し、お客さまのお取組みを対外的にアピールします

### 【ファースト・ポジティブ・インパクト・ファイナンス】

- 経済・環境・社会の3つの側面について、企業活動から生まれるポジティブ・ネガティブなインパクトを定量化し、独自の目標を設定する一連のお取組みに対して分析・評価し、対外的にアピールします

### 【省エネルギー設備投資に係る利子補給】

- 省エネ設備投資に対する金融支援

### 【地域脱炭素融資促進利子補給】

- 低炭素設備投資に対する金融支援（再生可能エネルギー等）

# 中小企業のお悩みに効く!

 富山第一銀行

**売上UP**

どうすれば…

**販路拡大**

方法は…

**後継者**

決められない…

**人材育成**

進まない…

企業の常備薬として

経営者の皆さま、一人でお悩み抱えていませんか。  
地域に根ざしているからこそ力になれる  
その思い富山第一銀行に聞かせてください。

 富山第一銀行 <https://www.first-bank.co.jp/business/>